

環境対策広報誌

Root

2009.9
vol.18

環境ロジスティクスを考える

しあわせな社会を
創造するため、

独自の環境美学を実践

― 株式会社フェリシモの取り組み ―

【兵庫の名産品・明珍火箸】

甲冑から火箸、風鈴へ…

形を変えながらも守られる

伝統の鍛冶技術



環境ロジスティクスを考える

しあわせな社会を

創造するため、

独自の環境美学を实践

— 株式会社フェリシモの取り組み —

大手企業の発展は、環境への取り組みとその実行力が大きく関係している。

近年、企業の社会的責任（CSR）の一環として、省資源・省エネルギー、廃棄物削減、リサイクルなど環境改善の取り組みが加速した。

近年においては、ロジスティクスに対する改善策が講じられ、

モーターシフト、低公害車の導入、輸配送の共同化などに積極的に取り組み

二酸化炭素排出量の削減が進む企業も増えている。

兵庫県内でいち早く環境保全の必要性に着目し、

さまざまな対策を実施している通販大手の株式会社フェリシモを訪ねた。

しあわせな社会を創るのに 不可欠な環境対策

株式会社フェリシモ(以下、フェリシモ)が環境を意識し始めたのは、バブル景気に躍っていた時期にさかのぼる。「しあわせ社会学の確立と実践」という経営理念のもとに掲げられたテーマは「ともにしあわせになるしあわせ」。より良い未来を創造するための持続的かつ連帯的な営みを企業存在理由とし、つまり現在の企業活動を通して、より豊かな未来を創出することが企業活動の本意であるのだから、現在の企業活動が地球環境を脅かしなくてはならないという考えが明確になった。「エコロジ」は私たちが地球上で暮らしていくための基本であり、より素敵な生活には必須のものだと考えています。ですから、環境問題への対応も道德的な側面だけでなく、美しさを求める意識から前向きに行動するという意味を込めて、私たちはエコ・エスティクス(環境美学)という考えを持っています」と、コトポレイトスタイルデザイン部「コトポレイト」ユニークグループの鈴木啓美さん。

自分にとって大切なものが地域にとっても大切なものであり、地球にとっても大切なもの。人間の健康、地球の健康と同様に人間の美、地球の美を追求しなければならず、人間にとっても地球にとつ

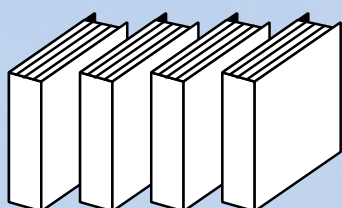
ても大切なことを見失わない。その基本的な企業姿勢は環境に対する取り組みにも大いにいかされ、2007年には「第8回あおぞら大賞」「神戸市環境功労賞」を受賞している。

全社員の 環境意識の向上がカギ

フェリシモは、1990年代初めから『しあわせマーク』などの環境ラベルを商品に付与し購入者に環境の意識を案内してきた。「お客様の環境意識の向上とともに、環境や社会に配慮した商品を開発し続けるなかで、1997年にはひとりひとりの社員が商品を開発する過程で少しでも環境に配慮できたり、お客様に正しい情報を伝えられるよう、社内で環境に対する基本的な考え方を示した「エコロジカルデザインカード」を作成しました。その後のISO14001環境マネジメントシステムの導入につながっています」と、コトポレイトスタイルデザイン部リーガル・コンプライアンスグループの石居天平さん。

現在では、商品開発にライフサイクルアセスメントの視点を取り入れ、原材料の調達から、製造、使用、廃棄のそれぞれの段階で環境への影響を評価する基準をつくり、持続的な取り組みが行われている。

〈フェリシモの環境対策の一つ カタログのリサイクル〉



カタログ 1,025t(※)

※2008年3月から2009年2月までに、お客さまからの回収も含めて当社より製紙会社へ納入したカタログ総重量です。



再生紙 872t



樹木20,513本分木材資源

※直径14cm、高さ8mの立木に換算して算定

出典：
平成2年度厚生白書
平成13年度版循環型社会白書



板木の植林



太陽光パネルの設置



屋上緑化

美しい未来を創出する さまざまな取り組み

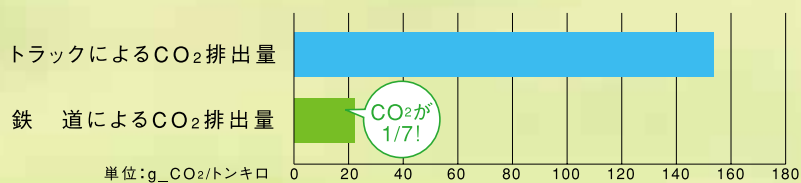
フェリシモの環境に対する取り組みは大きく分けて5つ。

1つ目は商品づくりに関する取り組み。商品を購入することで発生する自然や社会への影響を購入者に解説することで日常生活の中でできる環境意識の向上を呼びかけたり、環境への影響が懸念される物質や素材の使用を避けるなど、すべての商品づくりの基準としている。

2つ目はカタログ配布に関する取り組み。カタログに使用する紙は、間伐材や里山材、廃材なども使用し、印刷時のインクにも植物性インクを用いるなど、全かつ環境に配慮した原材料を使用。2006年からは天然林の消失や違法伐採を抑止することにつながると考え、ラオスでの植林事業にも参画している。さらに、不要になったカタログを回収しリサイクルしている。

3つ目は包装資材に関する取り組みで、有害物質の拡散の少ない水溶性インクによる印刷や、テープの使用をなくしたり、強度を変えずに資材を薄くし、紙の使用量を減らすなど、そのほかの包装資材も再利用できる工夫がされている。4つ目は総合物流・情報施設エスパスフェリシモでの取り組みで、雨水利用施設や

＜モーダルシフトの効果＞温室効果ガス排出量の比較



※トンキロ: 1トンの荷物を1km運んだ場合の事例です。

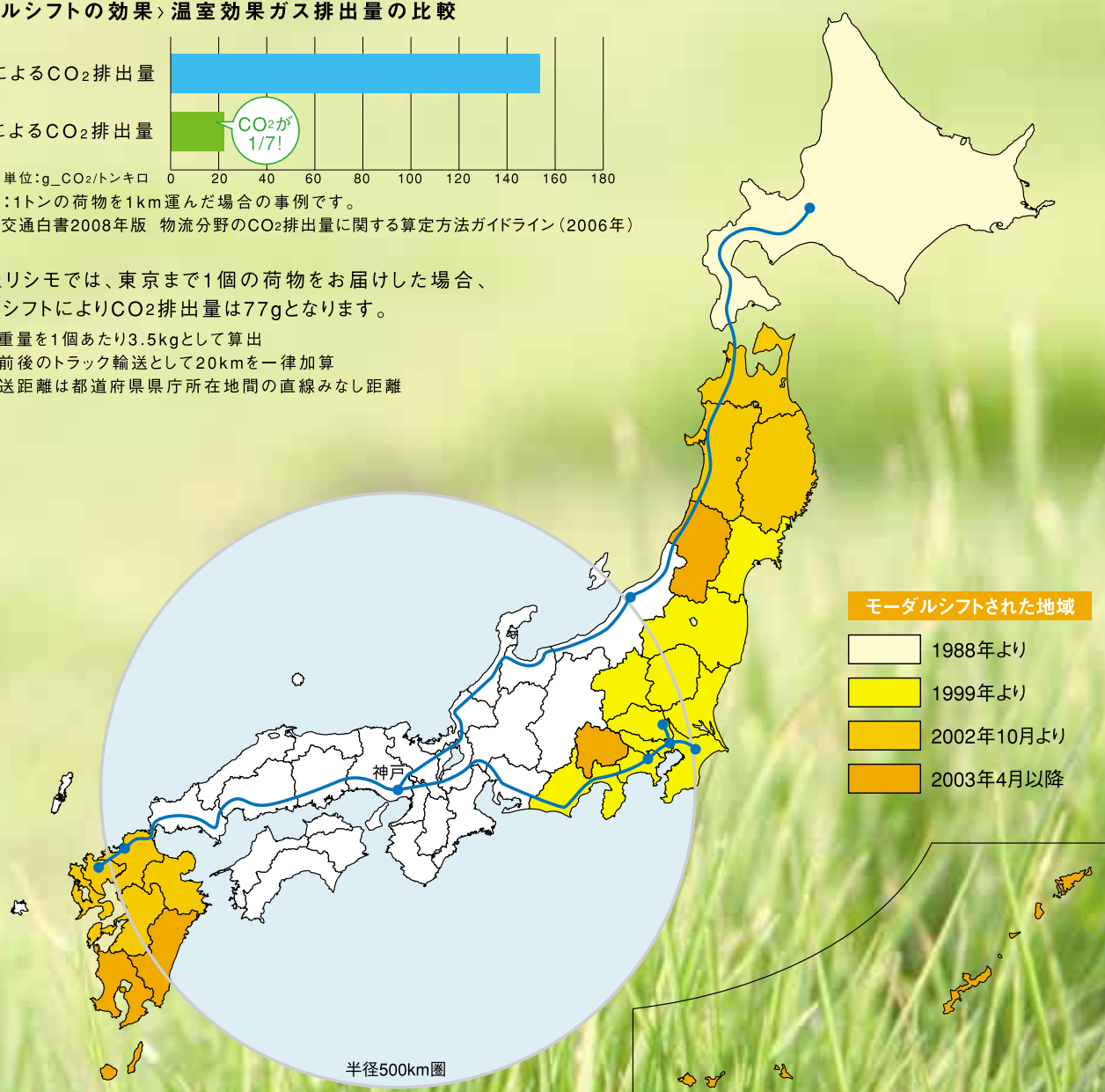
出典: 国土交通白書2008年版 物流分野のCO₂排出量に関する算定方法ガイドライン (2006年)

現在フェリシモでは、東京まで1個の荷物をお届けした場合、モーダルシフトによりCO₂排出量は77gとなります。

※ 荷物の重量を1個あたり3.5kgとして算出

※ 貨物駅前後のトラック輸送として20kmを一律加算

※ 鉄道輸送距離は都道府県県庁所在地間の直線みなし距離



屋上緑化を整備し、太陽光パネルも設置している。

最後にお届け時の取り組みとして、2003年から国土交通省の目標値を超える水準でモーダルシフトに取り組み、輸送時の温室効果ガスを大幅に削減した。

トラック輸送から 鉄道輸送に

フェリシモでは、1988年の北海道を皮切りに、長距離の輸送についてトラック輸送からJRコンテナを利用した鉄道輸送に切り替えている。

1999年には、静岡県、関東周辺と宮城県、福島県。2002年10月には青森県、岩手県、秋田県、さらに鹿児島県と宮崎県をのぞく九州各県に。そして2003年4月には山形県、および鹿児島県、宮崎県が加わり、その後、沖縄県も九州までは列車を利用。2007年から山梨県もモーダルシフトするなど改良を続けている。トラック輸送から鉄道輸送に切り替えた区間については、二酸化炭素などの温室効果ガス排出量は、およそ7分の1に抑制することができた。

「トラック輸送から鉄道輸送に。2003年の時点でモーダルシフトが完了しましたが、その後もさまざまな取り組みが行われ、コンテナの積載効率を高めるためにパッケージの見直しも行われました。



また、鉄道で運んだコンテナの配送先、物流センターへの振り分け、そしてお客様にお届けする宅配トラックのさらなる効率化を今後も進めなければなりません」と、物流サービス部顧客物流グループ配送チームの貴田邦彦さんは、届ける荷物一つ一つに気を配っている。

運送会社と共同で行う 環境対策

製品づくり、包装資材の改善、物流の効率化、そしてマイルシフト。しかし環境対策はこれで終わったわけではない。人為的なミスによる誤配送をなくし、コンテナを運ぶトラックや宅配を請け負うドライバーの運転マナーにも改善する要素はたくさんある。フェリシモでは運送業者との連携に力を入れ、毎年1回行われる契約更新時のチェックも、年々厳しくなっている。

「契約させていただく運送会社様には、当社の企業理念や経営方針、環境への取り組みをすべてお伝えします。その内容をきちんと理解していただき、同じように環境を保全することに賛同していただける企業様と契約させていただいています。ですからグリーン経営認証を受けている企業様がほとんどで、中にはISO14001を取得している企業様もありま

す」と、貴田さん。

契約する運送会社とともに一緒になって環境対策をすることで、お互いの意識を向上させながら無理のない配送業務を行うのも経営理念に合致している。

ドライバーとの連携で 始まる環境対策の本質

フェリシモも、契約を結ぶ運送会社も、それぞれの環境に対する企業姿勢は確立している。その際、最も重要になるのが荷物を運ぶドライバーの運転マナーである。フェリシモでは契約を結ぶ運送会社のすべてのドライバーにアンケートを実施し、環境への意識、車両の状況などを確認している。とりわけ注目したいのが車両の整備・管理状況。安全に走行するための点検はもちろん、燃費をできるだけ良くするため車両を可能な限りベストの状態に維持することも環境対策につながるからだ。

環境対策に対して前向きな姿勢を感じる運送会社とは、20年以上も契約を結び、配送先である購入者から直接意見を聞いてきたり、ドライバーでしか気づかない環境への配慮なども意見を交換するという。そうすることで信頼し合える関係が育まれ協力体制が築かれ、地に足の着いた環境対策が実施される。

宅配業務を委託されておよそ30年

― 姫路合同貨物自動車株式会社とフェリシモの関係 ―

30年の実績が築いた信頼

環境への配慮を開眼

姫路合同貨物自動車株式会社が担当する範囲は、兵庫県、滋賀県、京都府と広範囲に渡る。滋賀や京都には物流センターから配送センターへの効率を考えて、トラックのシフトが組まれる。できるだけ1日1台、多いときには2台になることもあるというが、他業者から帰り荷の受注などを受け、全体での効率化を図るよう努めている。

今回訪ねた宅配姫路センターは、姫路バイパス姫路東ランプのすぐ西にあり、バイパスや播但道を利用すれば山陽道や中国道へも便利にアクセスできる。そのような地の利をいかして、姫路市内はもちろん、西は岡山県境まで、東は明石市までを一日約40台でカバーする。配達エリアの特性、荷物の量などの条件に合わせて配車のシフトが生まれ、積載効率をより高める工夫が必要とされる。いかに早く的確に安全に配達するか。この基本的な条件を確実に守り長年の実績を積み重ねた結果、大きな信頼を得たといえる。

フェリシモとの業務提携で他の運送会社よりも早く環境への意識が高まったことが、今になって実を結んでいるという。「フェリシモさんとの長年の業務提携から、新たな環境意識を私たちに考えさせられるきっかけをいただきました。というのも、家具配送の業務の際に出る梱包資材が大量にあり、それを分別して再利用するようにスタッフたちから声があがり、いま実現しています」と、宅配姫路センター副所長の柳和彦さん。環境に配慮するという意識は、自らが率先して行動するところが大切で、フェリシモや配達先の人からも多くを学び、業務に反映している。「エコドライブを徹底したり、低公害車を導入したり、アイドリングストップを実行したりするのは、とても大切なことですが、実はもっと大切なことは常に環境保全を意識することだと思います」と柳さん。

大手企業が生き残りをかけて環境対策を講じるように、運送会社も本気で環境に配慮しなければならない時代が到来している。

甲冑から火箸、風鈴へ… 形を変えながらも守られる 伝統の鍛冶技術

姫路市の伝統工芸品として全国にファンを持つ「明珍火箸」。

一本一本手作業で作られた上質で涼しげな音色が人気の理由である。

明珍火箸本舗を訪ね

伝統の技を守り抜いてきた職人の横顔に迫った。





2



3

1. テンボよく鉄を打つ宗理氏。一連の動きには全くムダがない。
2. 火箸の原料となる鉄塊。鍛えて棒状にしていく。
3. 風鈴用の火箸。絹布でこすることでこの美しい漆黒色になる。



1

室温50度の仕事場から 生まれた 涼やかな音色の風鈴

「明珍火箸」は、800年以上にわたり伝承されてきた鉄を鍛える技術から生まれた。丈夫で錆びにくく、使い勝手の良さが広く知れわたり、多くの人に愛されていた。

「18歳から正月と盆を除いて、朝から夜中まで鉄を打ち続けてきました」と語るのは、鍛冶師の家系明珍家（現・明珍火箸本舗）の五十二代目当主、明珍宗理（みょうちんむねみち）氏。家業を継いでおよそ半世紀になる。

明珍家は、平安時代から甲冑師として姫路藩主酒井家につかえ、鎧や兜を作ってきた。明治維新を迎え、武士の時代が終わりを告げると、四十八代目当主、宗之氏は、茶室用の火箸を作った技術を生かし、本格的に火箸作りに着手した。

宗理氏が家業を継いだ頃は、石油ストーブやガスコンロの普及で、火箸の出番が減っていた頃。「早く一人前になって明珍の技を何とか伝えなければ」という思いで、来る日も来る日も鉄を鍛え続けた。そして、以前より火箸同士が触れ合う瞬間に発する美しい音色に着目していた宗理氏は、火箸を風鈴にすることを思いつく。試行錯誤を繰り返し、4本の火箸の真ん中に微風でも動く振り子を吊るすことを考案した。

昭和40年、氏が23歳のとき、室温50度の仕事場から「涼」を届ける新しい伝統工芸品「明珍火箸風鈴」が誕生した。

「明珍火箸」を生み出す 伝統の技術と熟練の職人

江戸時代から変わらない仕事場の中央には炭火の炉が構えている。その周りに、鋳、やつとこなど手製の道具が並ぶ。宗理氏は材料となる棒状の鉄を、1500度以上ある炉に差し込み、数十秒置く。炉に

差し込む時間は短すぎても長すぎてもいけない。燃えさかる鉄の色を見て絶妙のタイミングで取り出す。手早く足元の小さな台に乗せ、左手で鉄をはさんだやつとこを操り、鉄の角度を変えながら鋳で叩いていく。「トントントン」という小気味よいリズムで打たれ、四角い鉄の棒は箸へと形

を変える。鉄が冷めて、もう鍛えられなくなるまで再び炉へ戻し、この作業を繰り返す。炉から取り出した鉄の箸を絹の布でこすると絹糸に含まれている蚕の油が膜となり、錆びを防止する役目を果たす。

一連の作業を流れるような手つきで行う宗理氏には、何十年も毎日鉄を鍛えて体が覚えた静かなリズムが流れる。鉄と向き合い半世紀という時間の経過を、宗理氏の右手の掌の厚さと、右腕の固くしまった力こぶが物語っている。

可能性広がる音色と 受け継がれる伝統の技

「明珍火箸風鈴」の音色は、とても深みがある。涼しげで軽やかな鈴音の後ろで、深い低音が響いてくる。聴く人は癒され、なんとも幻想的な気持ちになる音色。一



1



2



3

1. より良い音を出すために二度打ちをする。
2. 鉄を溶かす炉の温度は1500度。
3. 火箸と振り子をていねいに糸でつなぐ。



鋳の頭部。白くなっている部分のみで鉄を打つ。



鋳をはじめとする道具はすべて手作り。

一つ一つの音色は違い、客は自分好みの音を楽しそうに探す。
この音色は、オーディオメーカーのマイク開発のサウンドチェックに使用されているほか、妊婦や認知症患者への音楽療法など、さまざまな分野で注目を集めている。
宗理氏の挑戦は終わらない。鉄以外にチタンや大変貴重な素材「玉鋼（たまはがね）」も扱う。現在、長男宗久氏、三男敬三氏が宗理氏を手伝い、次男宗裕氏は刀匠として腕を磨いている。伝統の技はこの先も変わらずに受け継がれていく。

『環境と物流を考えるシンポジウム』のご案内

～パートナーシップの構築による環境改善と物流効率化の推進を目指して～

国道43号および阪神高速3号神戸線沿道地域においては二酸化窒素や浮遊粒子状物質等に係る環境基準の達成が重要な課題となっており、国や自治体をはじめ物流を担うトラック運送業界においても様々な環境対策に取り組んでいます。

そこで、学識者、国、自治体、関係機関・団体等で構

成する近畿黒煙ゼロ推進連絡協議会と兵庫県トラック協会の主催による「環境と物流を考えるシンポジウム」を、荷主企業やトラック運送業界等の皆様および環境問題に関心をお持ちの市民の皆様を対象に下記の要領で開催いたしますので、ふるってご参加いただきますようお願い致します。

プログラム

■開場 12:30

■開会 13:30

■主催者挨拶

福永 征秀 社団法人兵庫県トラック協会 会長

■基調講演

<講師>

小谷 通泰氏 神戸大学大学院 海事科学研究科 教授

<テーマ>

『環境改善と物流効率化』

～ 三位一体によるパートナーシップの構築 ～

..... 休憩

■事例報告

<講師>

長井 優児氏 井阪運輸 株式会社 代表取締役社長

<テーマ>

『環境に配慮した先進的取り組み』

■パネルディスカッション

<テーマ>

『地域の環境改善と物流効率化の推進を目指して』

<パネリスト>

水田 節男氏 国土交通省近畿運輸局

自動車交通部 貨物課長

大鹿 政雄氏 尼崎市環境市民局 環境部 公害対策課長

大西 研氏 西宮商工会議所理事・事務局長

本木 時久氏 生活協同組合 コープこうべ

無店舗事業部 業務改革推進チーム 課長

野村 めぐみ氏 金田運輸株式会社 専務取締役

<コーディネーター>

小谷 通泰氏 神戸大学大学院 海事科学研究科 教授

■閉会挨拶 近畿黒煙ゼロ推進連絡協議会

■閉会 16:20 (予定)

同時
開催

低公害車両展示会、パネル展示会

12:30～16:30



日時 2009年11月27日(金) 12時30分より

場所 神戸海洋博物館ホール

神戸市中央区波止場町2-2 TEL078(327)8983

(市営地下鉄海岸線「みなと元町駅」から 南へ徒歩約10分)

(JR・阪神「元町駅」から南へ徒歩約15分)

(神戸高速(阪急・山陽)「高速花隈駅」から南へ徒歩約15分)

主催 近畿黒煙ゼロ推進連絡協議会、社団法人 兵庫県トラック協会

後援 国土交通省近畿運輸局、兵庫県、神戸市、尼崎市、西宮市、神戸商工会議所、尼崎商工会議所、西宮商工会議所

参加定員
250名

(※定員になり次第、
締め切らせて
いただきます。)

参加費
無料

●発行

社団法人 兵庫県トラック協会

〒657-0043

兵庫県神戸市灘区大石東町2丁目4-27

TEL078 (882) 5556 FAX078 (882) 5565

<http://www.hyotokyo.or.jp/>

●制作協力 株式会社トリス

根を意味するROOT。生活の根底を支える
トラック輸送を彷彿とし、さらにROUTE（ルート）
ともゴロを合わせ親しみやすくしています。



環境に配慮して大豆インキを使用しています

**地球環境を守る、エコドライブを推進します。
まずはアイドリング・ストップから、始めてみませんか？**



社団法人

安全・安心・環境にやさしいトラック輸送

兵庫県トラック協会

〒657-0043 神戸市灘区大石東町2丁目4-27

TEL 078 (882) 5556 (代表) FAX 078 (882) 5565